

UF21 学生生活アンケート

- 実施期間：2022年3月24日(金)～2022年4月1日(金)
- 対象者：UF21生 計59名
- 回答者：39名
- 回答率：66% (参考：US21 73%)

① 学習関連

- ✓ 1日当たりの平均学習時間（平日/休日）
- ✓ 学習に対するモチベーションの変化（上がった/下がった時期）
- ✓ 日々の学習で心掛けている事や工夫
- ✓ 学習時間の確保の為の工夫
- ✓ 苦手な分野の学習方法

② HR関連

- ✓ 満足度
- ✓ 良かった点・改善点

③ 大学院からの支援関連

① 学習関連

- ✓ 1日当たりの平均学習時間（平日/休日）
- ✓ 学習に対するモチベーションの変化（上がった/下がった時期）
- ✓ 日々の学習で心掛けている事や工夫
- ✓ 学習時間の確保の為の工夫
- ✓ 苦手な分野の学習方法

① 学習関連

1日当たりの平均学習時間

【ボリュームゾーン】 ⇒ 週25~36時間程度

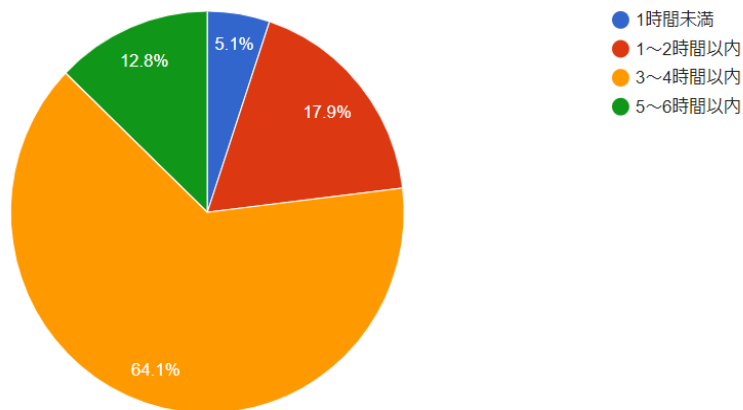
- ・平日：3~4時間
- ・休日：5~6時間、7~8時間

ちなみに、、、

・UF21生 平均受講科目数：6科目

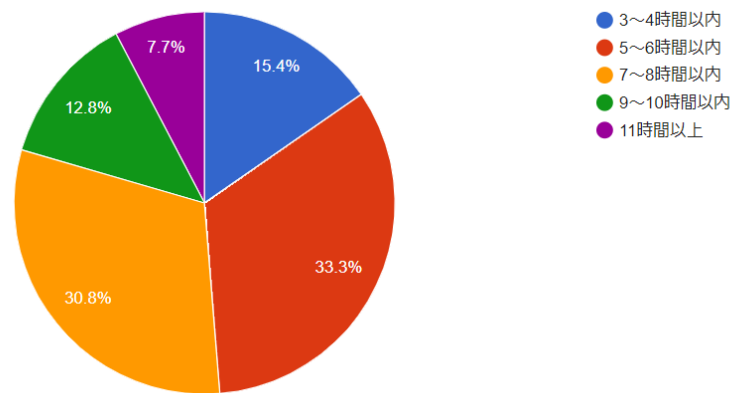
⇒1科目当たり・1週当たり学習時間：週4~6時間（1科目あたり1日1時間位）

【平日】



回答	投票数	投票率
1 1時間未満	2	5.1%
2 1~2時間以内	7	17.9%
3 3~4時間以内	25	64.1%
4 5~6時間以内	5	12.8%
5 7~8時間以内	0	0.0%
6 9~10時間以内	0	0.0%
7 11時間以上	0	0.0%

【休日】



回答	投票数	投票率
1 3~4時間以内	6	15.4%
2 5~6時間以内	13	33.3%
3 7~8時間以内	12	30.8%
4 9~10時間以内	5	12.8%
5 11時間以上	3	7.7%
6 1時間未満	0	0.0%
7 1~2時間以内	0	0.0%

① 学習関連

修了予定年次と学習時間の相関(平日)

【ボリュームゾーン】

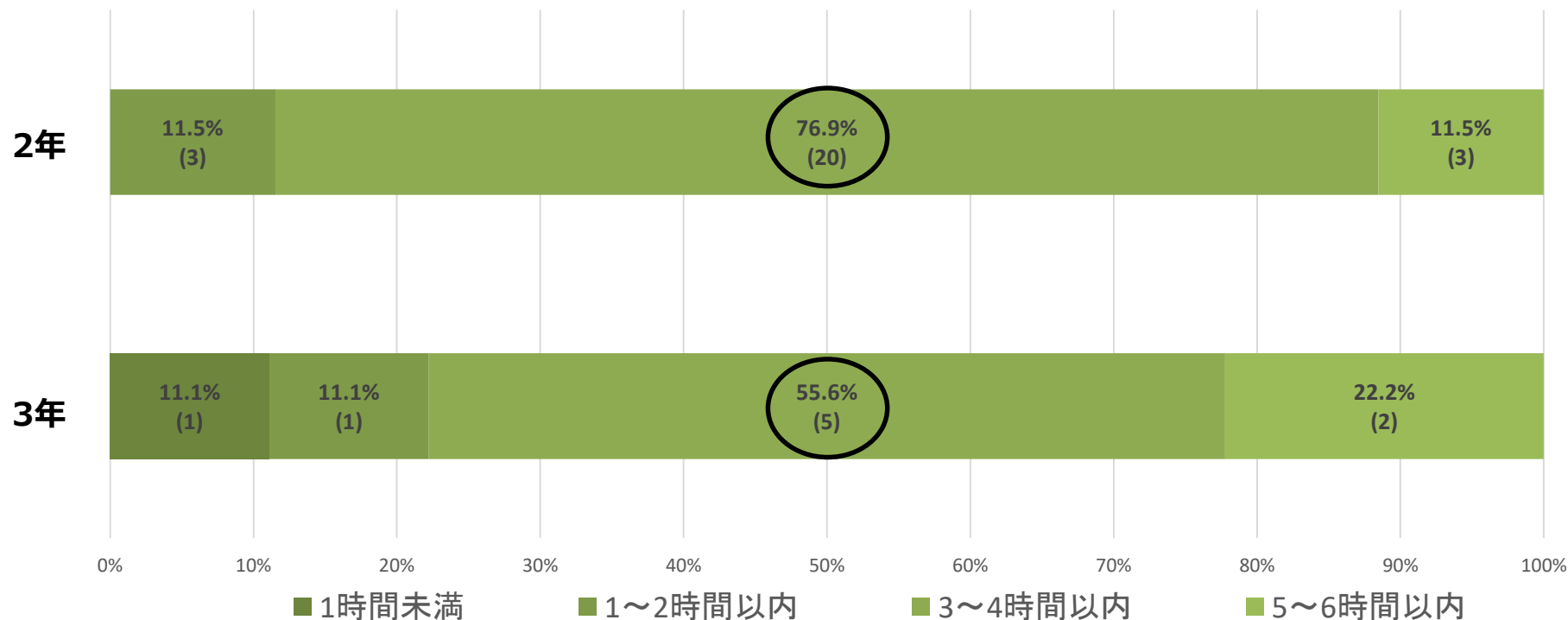
- ・2年：3~4時間
- ・3年：3~4時間

【所感】

- ・修了年次に関わらず、「3~4時間」がボリュームゾーン
- ・平日の学習時間はこれくらいが目安か？

【修了予定年次】n=39

- ・2年：26名
- ・3年：9名
- ・4年：3名
- ・5年：1名



① 学習関連

修了予定年次と学習時間の相関(休日)

【ボリュームゾーン】

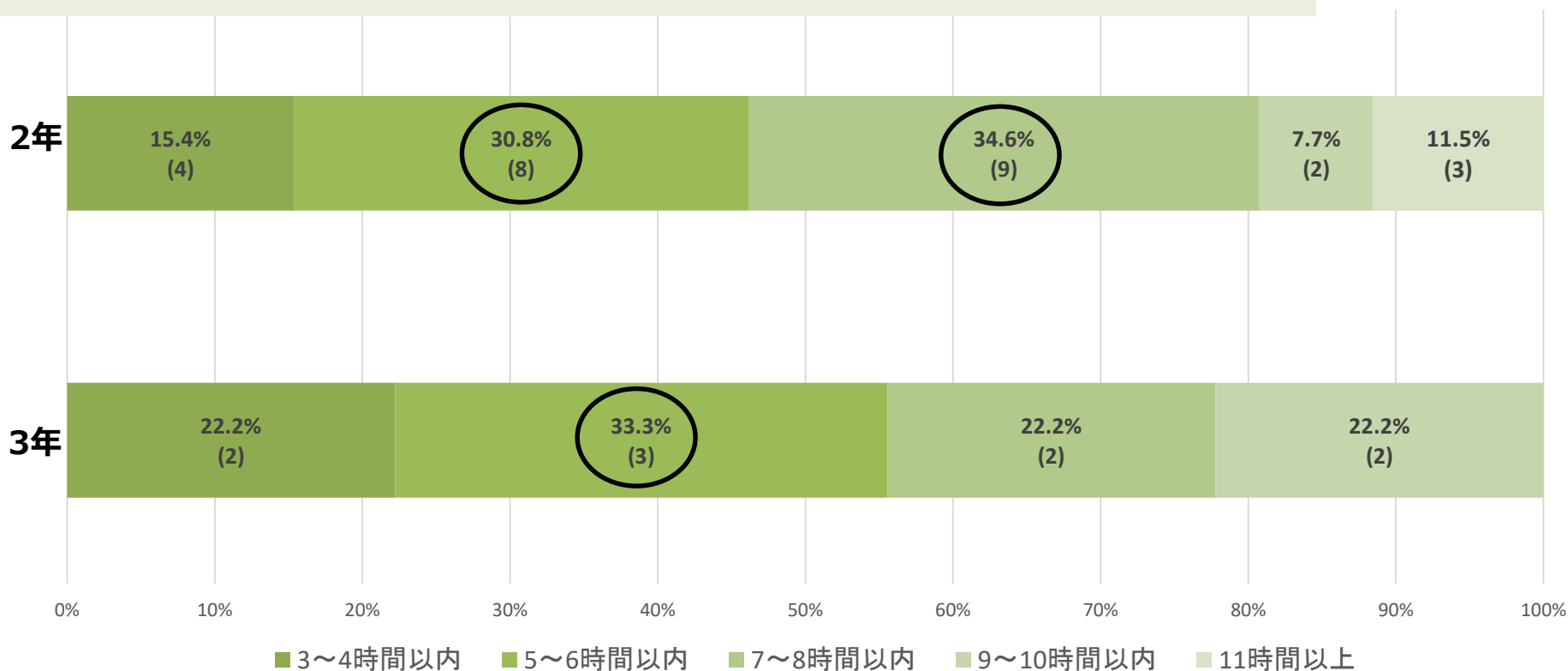
- ・2年：5～6時間、7～8時間
- ・3年：5～6時間

【所感】

- ・2年修了予定：休日に学習時間を多くとる傾向
※履修科目数の多さ？平日学習できなかった分の埋め合わせ？
- ・2年/3年修了予定の間で、もっと差が出て良かったのに。。

【修了予定年次】n=39

- ・2年：26名
- ・3年：9名
- ・4年：3名
- ・5年：1名



① 学習関連 学習へのモチベーション

【上がった時期】

【10月】

- 自身がやる気に満ち溢れていた
- HRがあり、互いの気持ちや意識を確認
- 学べることが新鮮だった
- 新たな学びのスタート地点

【11月】

- ペースが掴めてきたため
- 学ぶ面白さを感じ始めた
- 目から鱗の情報

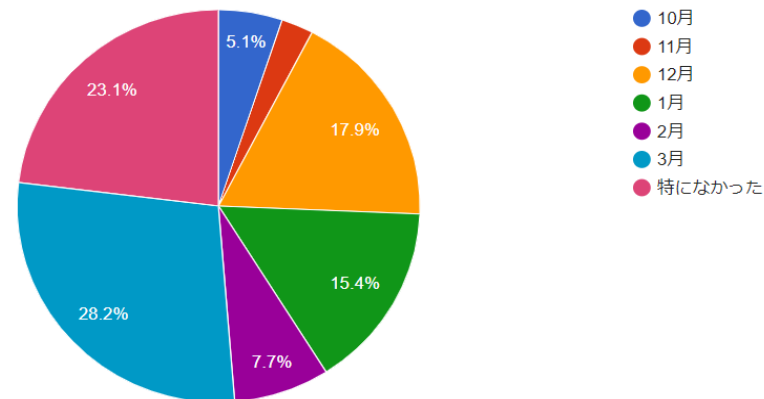
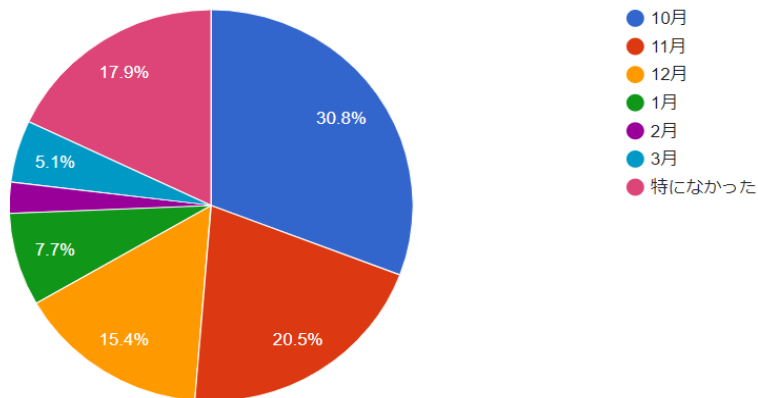
【下がった時期】

【12月・1月】

- 自身の中での伸びを全く感じられなかった
- 仕事とのバランスが取れなくなった
- 科目が増えてついていくのが大変

【3月】

- 評価期間外
- 燃え尽き症候群
- 業務環境の変化
- 少し休む時間がほしかった



回答	投票数	投票率
1 10月	12	30.8%
2 11月	8	20.5%
3 12月	6	15.4%
4 1月	3	7.7%
5 2月	1	2.6%
6 3月	2	5.1%
7 特になかった	7	17.9%

回答	投票数	投票率
1 10月	2	5.1%
2 11月	1	2.6%
3 12月	7	17.9%
4 1月	6	15.4%
5 2月	3	7.7%
6 3月	11	28.2%
7 特になかった	9	23.1%

① 学習関連

モチベーションの維持や向上の為にご自身で心掛けていたこと

【コメント抜粋】良好な健康状態、休息、学習の自己管理、本業へ活かす、ありがたい姿、HRの活用

- HRメンバーとのコミュニケーション
- 睡眠時間の確保
- 何故入学したのかを思い出す
- 卒業後に自分がどうなりたいかを再確認
- 楽しむことを意識し続けていた。
- 1日1つでもいいから発言
- 仲間の投稿を見る
- 他の人と比較せず、自分の成長を基準にする
- 成長する責任がある、という気持ちでいること。
- 毎日ACにアクセスを目標
- 学んだ内容をすぐに本業に活かす

健康状態を保つことです。食事・運動・睡眠のバランスをとり、体が悲鳴を上げないようにすることを心がけています。

卒業後に自分がどうなりたいかを再確認する

仕事が見つってもこの学びの継続がいつか活きると言い聞かせた

特に必修科目に関しては、不合格となると必ず再履修しなければならず、お金がかかるので、それを忘れないように心掛けていた。

同学年のコミュニケーション、規則正しい生活、周囲（家族、上司など）の理解。

睡眠時間の確保。

学習したことを実務にすぐ活かしてみること。

とにかく1日1回以上はACへアクセスする

成長する責任がある、という気持ちでいること。

コンスタントに課題に取り組む、立てた目標は毎日しっかりとこなす

学習時間が記録できるアプリを利用し、今まで自分が学習にかけた時間が可視化できるようにした。

HRでの情報交換で意識を入れ替える

何故入学したのかを思い出す

将来を考えること、ACや外での学友との交流

参考講義から学ぶこと

HRメンバーとのコミュニケーション

常に初心（なぜ入学したか）を忘れないようにしております

学習の目的を自分に問いかけ続けた。

楽しむことを、意識し続けていた。

とにかく1日1つでもいいから発言をすることを心掛ける。

仕事も含めてのスケジュールを可視化して、意識して生活のリズムを自分なりに管理すること。

学びをアウトプットし、自分の力となっている事を感じるように意識すること

時間をいかに確保するか。隙間時間を見つけるか。

学習した内容を主人に話したり、職場で実践するよう心がけていた。自分が学ぶ目的は何か？を常に意識して授業や課題に取り組んでいた。

なぜ学び始めたのか、ということを時々思い出すようにしています。

① 学習関連

日々の学習で心掛けている事や工夫

【コメント抜粋】スキマ時間の活用、学習のメリハリ、朝型人間へ、スケジュール管理、ツールの活用

- 移動時間で映像を見る
- 土日の午前中に集中する
- 出来るだけ朝に学習する。
- 一週間の初めに学習計画を立てて、一週間が終わった後に振り返り
- あまり自分を追い込み過ぎないように
- アプリを使って、学習時間を可視化(Study Plus)
- OneNoteで学習していることを一元管理
- 課題の完成形を最初にイメージ
- 課題を溜めずに、可能な限り早めに

移動時間で映像を見る。RTOCSは課題設定まで土曜日までに終わらせる。ディスカッションは必ず1回以上発言・返信する。

講義のペースに合わせる。

土日の移動時（単身赴任先）の6時間のオンライン講義の視聴

講義動画は倍速で見る。

通勤電車内で講義映像を見る。12時までに就寝する

通勤内で動画を見る、ディスカッションを投稿する前に合わせて動画を見る。

仕事を早く終わらせ学びの時間を作る。

カフェなど、短時間でも1人で集中できる環境で学習すること。

昼食や夕食を取る時は必ず講義映像を見るか、教科書を読む

土日の午前中に集中する

通勤で映像を見た上で隙間時間で情報収集、まとまった時間はそれらから何が言えそうかに時間を使った

一週間の初めに学習計画を立てて、一週間が終わった後に振り返りを行う。

通勤電車内で講義映像を見る、朝に学習をする

OneNoteで学習していることを一元管理する

カフェなど落ち着く場所で教科書を読む・講義映像を見る

授業や課題を溜めずに、可能な限り早めに実施する

出来るだけ朝に学習する。

仕事の予定を踏まえて週の始めに学習の計画を立て、できる限り計画をずらさずに学習を進めた。

1日1発言。スマホにDLして講義を見る様にしている。

時期によるが、スケジュール表を作成して進捗確認を行う。日によって学習に充てる時間が異なるので、週単位でスケジュールを意識する。

毎日の通勤で講義、ダラダラと時間を浪費しないようにメリハリをつけて科目ごとに取り組む

ジムで自転車をこぎながら講義をみる。短時間で終わらせることを意識する。

受講科目だけに目を向けるのではなく、エアーサーチでお気に入り(業務上必要な知識、興味関心の幅を知る)を見つける。

アプリを使って、学習時間を可視化するようにしている

週始めに大まかな予定表を作成し、なるべくその予定表通りに進める。また、予定通りにいかないことは当然として、修正をよしとする。

① 学習関連

学習時間の確保の為に、家庭面や仕事面との両立において工夫

【コメント抜粋】早寝早起き、業務の効率化、家族の理解を得ておく、自己犠牲、優先順位

- 早朝に勉強
- 土日は朝一中心に学習
- 残業を意識的にしなくなった
- 家族からの理解を得る
- 職場で学習していることをアピール
- 息抜き・家庭サービスの時間を強制的に作る
- 無駄な時間（テレビやその他）を自分の中で無くす
- 仕事の生産性を上げた
- 家族との対話
- 休日に学習で時間が取られそうなときは、**予め宣言**
- 不要な呑みや成長幅のない業務は断る
- **睡眠時間を削る**

小さい子供がいるため、一緒に寝て早朝に勉強するようにしています。仕事も空き時間にはできる課題に取り組んでいます。

時間の使い方のログをつける

土日は朝一中心に学中

残業を意識的にしなくなった。勉強以外にかかる時間を、あらかじめ決めておいて遊んだり、休んだりするようにした。

仕事の生産性を上げて無駄な残業はしない。家族との時間を作る

周囲の理解を得る、子供たち同士で遊んでもらう、学習の時間と家族の時間のどちらもあらかじめ確保す？。

朝型学習です。

家族からの理解を得る

在宅ワーク可の職場なので、空いた時間は学習に充てている。

年間で仕事のピークを管理 テストとピークがかぶらないように職場で学習していることをアピール

スキマ時間の活用（通勤など移動途中で講義映像を見る）、家族との対話

仕事も含めて、まとめてスケジュール調整を行っている。週単位・月単位で調整している

早めに他の予定を確定させていく。

休日に学習で時間が取られそうなときは、予め宣言しておく。

時間調整しやすいように、モバイルPCやタブレット、スマホ等を活用し、職場、自宅などどこでも学習や仕事ができるように環境を整えた。

息抜き・家庭サービスの時間を強制的に作ること

春学期からの実践となりますが、週2出勤、週3リモート業務(午前中は大学院の勉強に集中)として、学習時間を確保していきたいと考えています。

朝はギリギリまで寝る。無駄な会議に出ない。残業は可能な限り行わない。

土日のどちらかは予定を入れず、学習する日とした。

各教科のガイダンスを読み込み、受講終了までのスケジュールを作り込む。 毎日の大体の時間配分を含む

自分でやらなくていいこと、優先順位の低いことはしない

特にありません

他者の協力を得る

無駄な時間（テレビやその他）を自分の中で無くすようにやりたいこと、やらなければいけない事のメリハリをつけている。

不要な呑みや成長幅のない業務は断るようになりました。学びを優先することにしたので、今までのように断ることに忸度しなくなりました。

① 学習関連

馴染みのない分野、苦手な分野の科目の学習法

【コメント抜粋】多様なソースを活用、クラスメイトを活用、まずは自分で調べる、自分は自分

- **まずは自分で調べ、アウトプットする**
- **積極的に質問、返信**
- **聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥**
- 一番簡単そうな入門書を別で読む
- **インターネットなどで情報をさらう**
- **講義を何度も繰り返し聞くこと**
- 自分で簡単に調べる⇒他の方の投稿を参考にする
⇒さらに自分で調べる
- **講義を何度も繰り返し聞くこと**
- **自分のペースを守り、他の方と比較しない**

AC上で積極的に質問、返信をするようにしていました。聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥という諺があるとおり、プライドを持たずに聞く姿勢を取るようにしています。

一番簡単そうな入門書を別で読む、入門的な内容を紹介する動画参照

講義を何度も繰り返し聞くこと。目と耳から何度も情報をインプットする

クラスメイトの発現を参考に、考え方・発現のベースをつかんでいった。

気分が乗らないときは無理に取り組まない。クラスメイトの発言を参考にしながらも、自分とは比較しない

インターネットで検索したり、同期とのコミュニケーション。

AirSearchで関連情報がないか探してみる。

インターネットなどで情報をさらいました。

他の人のDiscussionの投稿を読む。ウェブサーチ。AirSearch

教科書や参考図書を活用する

得意な方を見つけて、その方と議論する

会計関連の科目が苦手。同級生の発言内容や回答を参考にし、まずは自分の手を動かして答案を作成してみ慣れていた。

会計系が苦手な、まずは表面的なことだけでも学びを進めようと心がけました

調べること 過去のAS資料などを閲覧

要約された情報を公開しているホームページなどネット情報で一次情報を取得する

「自分で簡単に調べる⇒他の方の投稿を参考にする⇒さらに自分で調べる」というサイクルを心掛けている

参考文献、インターネット記事から知識を補完

最初に講義資料に目を通して最低限の情報をインプットしてから、講義映像を視聴した。

ネットで調べたり、AirSerchで補足になるような講義を参照する。

本やネット上の情報を検索するなど、調べる時間を増やした。

教科書だけでなく、インターネットでの調査、職場での参考情報収集なども心掛けた

私自身、教養や世界情勢、経済に関する知識が薄く、ディスカッションするだけで苦労しました。そのため、日経電子版やnewspickで情報収集を行ったり、ビジネス誌の定期購読を行うことで、少しずつ知識をつけるようにしました。

他の人の投稿を読むことで、理解が進むこともありました。可能な限り、予習をしていました（教科書）。

時間をかける。開講前に教科書を読む



HR関連

② HR関連 HR活動全体の満足度

【所感】

- 「大変そう思う」「そう思う」層で87%

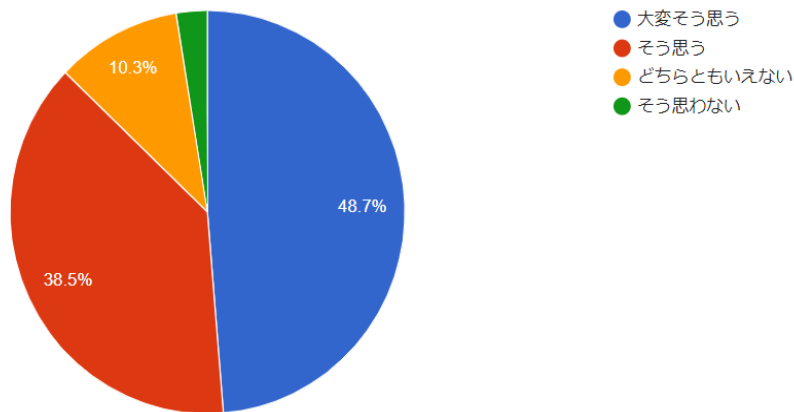
⇒HRの意義が浸透している

※「大変そう思う」が半分近く。嬉しい。。。

- HRの温度感はグループや属人によってマチマチ
※「義務的な報告会」という立ち位置のグループもあるかも
※「自由参加」という枠組みは変えず継続実施

【HRを一言で！】(抜粋)

- アットホーム
- 自分の足りてない部分を認識できる場所
- 安心できる場所
- 大事な相談場所
- モチベーションを維持する場所
- 同志と語る場所
- 月に1回の憩いの場



回答	投票数	投票率
1 大変そう思う	19	48.7%
2 そう思う	15	38.5%
3 どちらともいえない	4	10.3%
4 そう思わない	1	2.6%
5 全くそう思わない	0	0.0%

アットホーム
気軽に相談ができる。
自分の足りてない部分を認識できる場所。
オンラインであるが、顔の見える近い仲間ができた
仲間に相談できる場所
安心できる場
月に一回の息抜き。
大事な相談場所
他に頑張っている仲間と会える。
気軽に学校のことについて雑談が出来る場所
憩いの場
息抜き
心の拠り所
学校生活でいうところの休み時間
月に一度の楽しみ
学習する仲間の存在を確認できる場。
コーヒープレイク、またはサロンのようなひととき
次の行動に向けた小休止のリセットの場
どんなメンバーがいるのかが分かる。
義務的な報告会
所属場所（繋がりがあることの安心感）
相談場所
息抜きの時間

② HR関連 HR活動の良かった点・改善点

【良かった点】(抜粋)

- 共感の場（「自分だけ」ではない）
- 相談できる仲間ができた
- 心強い連帯が得られた
- クラスメイトの顔が見える
- 異なるバックグラウンドの方々との意見交換
- 生々しい状況を確認できる場

⇒HRだから実現・実感できた事が多数。学校へのエンゲージメントが強化出来た

支え合いの場

生々しい状況を確認できる場

憩いの場。

共感の場（仲間ががんばっている、悩んでいる姿に共感できる。そして前向きになれる）

同期と交流できたことが1番の財産です。

仲間ができた。

どのような人が同級生にいるのか、わかる点。

相談できる仲間ができた

仲間との絆を作ることができ、前向きな気持ちになった。卒業後もビジネスできるような仲間探しができている。

何を履修するか、課題の抜け漏れがないか、自分の認識は正しいか、など様々な相談ができた。

相談したり、学習のモチベーションの刺激を頂けた。

相談できる。話せる相手がいる。知らないことを教えてもらえる。

仲間ができたこと

異なるバックグラウンドの方々との意見交換

同じく時間資源が限られた仲間同士で話し合うことにより、心強い連帯が得られた。

相談できる仲間だと考えています

どのように勉強しているかを聞くことができた

雑談での息抜き

同じ悩みを共有できる仲間とコミュニケーションをとることができる点

他の学生の取り組みなどについて知ることができた

様々な情報共有も可能であったし、苦勞な点などを互いに話し合うことができた

クラスメイトの顔が見えることで、ディスカッションがやりやすくなった。

【改善点】(抜粋)

- 合同で実施する場があってもいい
- もう少し少人数の方がよい
- 教務部の方が必ず入ってリードしたほうが良い
(何を話すか迷っているケースが多い)
- 開催頻度を少し増やす
- 半年だけでなく終了まで継続できる仕組み

人によって通知を設定していないため、連絡網が機能していない時がありました。通知設定を強制する方が良いかもしれないと感じました。

合同で実施する場があってもいいかもしれませんが。任意参加だが一定ペースで設定する。別グループになると話す機会がほぼ皆無なため

報告のフォーラムがあるので、何らかのフィードバックがあると良いと感じました。

特になし

オンラインで全員話せる人数だと5名くらいが適当かもしれないと思いました。ただ今の運営でも十分満足です。

グループ間のやり取りが学生に任されていること。一斉に集まる会を教務側で企画いただいてもいいのではと感じた。

特にありません。

どうしても夜遅くになってしまう

特にございません

特になし

特になし。

50音順にすると、苗字が被る場合があるので、バラバラにしてほしい。

特になしですが、あいさつお順でない方が 同姓がなく名前を呼びやすい

ディスカッションテーマの工夫（マンネリ化防止）

特になし

様々な方と交流したいので、半年ごとにメンバーチェンジをしてもいいなかも考えた

もう少し少人数の方がよいかもしれません。4～5名くらいが話がしやすいです。

特に感じていない。

全員参加できないことがある。頻度、内容は良いと感じます

② HR関連 HR活動で期待できる効果

Appx.



○キャンパスライフ編

- ・クラスメイトとともに成長する機会となる。
 - ・オンライン学習で孤独にならないための土台が作れる。
 - ・本活動を契機に、同じ経験を体験し、一生の友ができる。
 - ・繋がった仲間とイベントやスタディツアーを企画したり、学生生活の幅が広がる。
 - ・都度、相談できる環境・仲間ができる。
- ⇒ 履修状況の相談
⇒ スケジュールの見逃し防止
⇒ 学習方法の工夫点の共有

○学習編

- 1) 学習効果への期待
⇒質問しやすい雰囲気ができる。遠慮は無用！
- ⇒異論反論の議論ができる。自分の意見に指摘をたくさんもらえると、発言内容の質が高まる。
例) 先入観に気づく。
- ⇒多くの情報、アイデアが集まり、発想が柔軟になる
- ⇒集団IQが高まり、議論・発言の質が高まる
- 2) 相互学習への促進⇒Give&TAKEの関係
⇒専門知識を惜しみなく提供(例:財務など)
- ⇒ITスキルを共有。他にも便利ツールを紹介しあう。
- ⇒サイバーでも顔がみえる討論ができる



大学院からの支援関連

③ 大学院からの支援関連 本大学院からどのような支援があるといいか

【まとめ】(抜粋)

- 現在実施中の主な支援で良い
- 教務部の方との1on1ミーティング ⇒ **マンパワーがあれば…**
- 新入生以外にもご指導、相談、交流の場 ⇒ **同上**
- AC上の発言に対する指摘や質問を必ず頂ける仕組み ⇒ **各科目で教員やTAと連携**
- 過去相談やリンクなどでの情報共有 ⇒ **FAQページやチャットボットとの連携**
- 講義動画がアップされるスケジュールを事前に開示 ⇒ **これって出来ないんでしたっけ？ (各期スケジュール公開時とか)**

教務部の受講相談のスレッド

過去相談やリンクなどでの情報共有

現状で満足しております

AC上の発言に対する指摘や質問を必ず頂けるとういことです。考えて発言した内容に誰からも反応がないと、発言する意欲を継続しにくいです。

講義動画がアップされるスケジュールを事前に開示して頂けると、予定が立てやすいと思います。

講義内容やそこから派生することについての個別の質問や意見を伺いたい時に教授陣にコンタクト出来る方法や、学生同士で特定の方と意見交換出来る方法があるとありがたい。

これまでのHR参加やイベント、相談などで十分なサポートだと思います。年次が上がると次年度の生徒中心に変わるとは思いますが、合間を見てまた同じ様なご指導、相談、交流の場を持っていただけるとありがたいです。

教務部の方との1on1ミーティングを2か月に1回程度は行う (メンターとして)

現在の支援内容で問題ないと思います。

1オン1に対するニーズは多いかもしれません (よろず相談より短時間で、受講相談とは違って話題限定なし、など)

今でも満足していますが、問い合わせに迅速に真摯に回答してもらえると、です。

土日でも校舎が開放、使用できれば、受講生同士での勉強、リアルでの交流の場としたい

"在学中は、現在実施中の主な支援で良いと思います。

入学前に、教育訓練給付制度について知らず、申請を逃してしまったので、入学前にその点をアドバイス頂けると有り難かった。"

よろず相談は本当に嬉しかったです。事業をする上での悩みを相談する場所があまりなく、アドバイスを受けられて状況を改善させることができました

今のところ特に浮かびません

教務部との相談を、希望者ではなく必須にすると良いかなと思います。相談することでもないけど、、、と思いつつも、間違いなく相談することができるとプラスになる気がするので。

① 学習関連

- ✓ なんととっても健康第一
- ✓ メンタル面でのフォローの際に引き出しをいかに持つておくか。
(人と比べない事、自分は自分、やりすぎない等)

② HR関連

- ✓ 現在の形で継続実施
- ✓ HRによって実現出来ている事が多い
- ✓ 「業務連絡」スタイルにならないようにガイダンス必要かも

③ 大学院からの支援関連

- ✓ 受講相談・よろず相談・単発イベントを軸に継続支援
- ✓ 各科目でカバーできる事は、教員やTAと連携